

(様式2)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究(小・中学校)」
平成23年度委託事業完了報告書
【推進地区】

都道府県名	山口県	番号	35
-------	-----	----	----

推進地区名	岩国市
-------	-----

1. 重点課題への取組状況

(1) 学力向上プランを活用した児童生徒の学力向上

各校において学力向上プランを作成し、各学期末には、その成果と課題を検証して具体的な改善策を講じるなど、PDCAサイクルによる学力向上システムの充実を図ってきた。

これまでの全国学力・学習状況調査等の結果から、活用力に課題があることが明らかとなり、「岩国プラン」に示すような問題解決的な授業を積極的に行うことが重要であることから、学力向上プランに、「かかわり」のある授業を意識した具体的な方策を盛り込むことを推進した。

(2) 授業力向上をめざした校内研修の活性化

授業を相互に見せ合うことの習慣化、積極的な外部講師の活用、授業研究での協議方法の工夫、研修だより等による情報の共有化を重点として示した。

本事業の推進校である岩国市立川下小学校を含め、市内の9小中学校で公開授業研究会等を開催し、市内の研修主任等が選択して参加するようにした。研修主任が他校の授業研究会や研究発表会に参加することで、市全体での校内研修の活性化をめざした。

(3) 「かかわり」のある授業展開の推進

岩国プランに示す学習意欲を喚起する教材提示の工夫、自力解決の場の設定、学び合いや練り合いの場の設定、個に応じた学びの保障等を重視した授業展開を周知するため、冊子「学力向上のために」を配布するとともに、研修主任会で授業改善のポイントについて確認した。

岩国市学力向上推進委員会の委員として、市内16小学校の中堅となる教員を委嘱し、課題を解決するための各教科の授業展開例と実践例を冊子にまとめ、各校に配布した。

研修主任会では、冊子「学力向上のために～小学校編～」の説明を行い、「かかわり」のある授業へのより一層の理解を図った。

2. 調査研究の成果及び今後の課題

(1) 調査研究の成果

①各校における学力向上プランの充実

指導主事の学校訪問時に、各校の学力向上プランへの指導助言を行うとともに、学期ごとに評価の提出を求めたことにより、改善策が具体的なものとなってきた。各校では、やまぐち支援プログラムやインタラクティブ・スタディを積極的に活用するとともに、岩国プランを意識した児童生徒の課題解決に向けての授業が積極的に行われるようになってきた。

課題の一つであるコミュニケーション能力の育成を意識した授業は、市内のすべての学校で行われている。

②授業研究を中心とした校内研修の活性化

複式3学級の学校が多い中、92%の小中学校が、授業研究を伴う校内研修を年間5回以上実施することができた。

各校における校内研修では、ワークショップ型を取り入れた協議会が積極的に行われるようになったきた。概念化シートや拡大指導案などを活用し、授業の課題や成果、改善策についての工夫した話合いが行われた。

③授業評価を活用した授業改善の充実

推進校では、児童による授業評価、教員による授業評価を積極的に取り入れ、授業改善を行ってきた。特に、改善指導案の作成と再提案授業の実施は、授業改善への意識を高めるとともに、授業の仕組み方を研究するよい方法であった。

④研究発表会や研究報告書による成果の公開

推進校では、取組の成果を公開するため、11月に授業研究会を実施した。推進校以外にも8校で授業研究会や研究発表会を開催し、他校の校内研修に参加したことが、岩国市全体の校内研修活性化につながった。

(2) 今後の課題

①学力向上プランを活用した継続的な学力向上への取組

学年や校種が変わっても児童生徒の課題となる部分についての取組を継続的に進めていくための学年間及び小中間の連携が課題である。

②授業研究での成果と課題を生かした授業改善

各校の工夫により、授業改善のための協議が活発に行われているが、一人ひとりの教師が自分のこととして捉え、実際の授業にどのように生かしていくかが課題がある。

③「かかわり」のある授業の質の向上

自力解決の場、学び合いや練り合いの場が多く授業で見られるようになってきたが、その質を高めていくことに課題がある。

④中学校における「かかわり」のある授業の具現化

岩国市学力向上推進委員会により、中学校における課題を解決するための各教科の授業展開例と実践例をまとめ、より一層の啓発を図っていく。